

# 2022 年度第一回日本生理人類学会睡眠研究部会

(プログラム)

- 13:45～ Zoom 入室受付開始
- 14:00～15:00 特別講演「睡眠脳波研究のこれまでとこれから」  
講師：宮内 哲 先生（関西医科大学生理学講座・情報通信研究機構）
- 15:00～15:30 一般講演1「健常者における覚醒後過同期」  
講師：鈴木 陽子 先生（筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構）
- 15:30～16:00 一般講演2「REM 睡眠中の嗅覚刺激提示による夢への効果」  
講師：岡部 聡美 先生（国立精神・神経医療研究センター，日本学術振興会特別研究員 PD）

## (発表概要)

### 特別講演「睡眠脳波研究のこれまでとこれから」

講師：宮内 哲 先生（関西医科大学生理学講座・情報通信研究機構）

北村先生から「睡眠脳波研究のこれまでとこれから」というテーマをいただき、「テーマが大きすぎて、私には荷が重いです」と回答したのですが、「これを機会に私のこれまでの研究と現在行っている研究をまとめてみよう」と思い直しました。講演全体で一つのもまとめたメッセージがある訳ではなく、とりとめのない話になると思いますが、以下の4項目について、論文の文章だけでは伝えにくいことや論文発表後にわかったことを中心に紹介し、「睡眠脳波研究のこれまでとこれから」に代えさせていただきます。

1. Hans Berger と Angelo Mosso 世界で最初にヒトの脳波を計測した研究者と、世界で最初にヒトの脳血流を計測した研究者
2. Alfred Loomis 世界で最初に終夜睡眠脳波を計測し、K-complex と睡眠紡錘波を発見し、睡眠段階を分類した研究者
3. 私が行ってきた REM 睡眠時の急速眼球運動に伴う脳活動の研究
4. 現在行っている研究（閉眼時瞳孔径と眼位の計測）

### 一般講演Ⅰ「健常者における覚醒後過同期」

講師：鈴木 陽子 先生（筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構）

睡眠脳波における覚醒後過同期とは、覚醒後に数秒から数十秒同期性の強いデルタ波が出現し、その後に睡眠が浅くなる。覚醒後過同期はこれまで小児脳波の特徴とされてきたが、成人においても認められ、現在では境界脳波と分類されている。今回は覚醒後過同期についてこれまでわかっていることについて発表する。

### 一般講演「REM 睡眠中の嗅覚刺激提示による夢への効果」

講師：岡部 聡美 先生（国立精神・神経医療研究センター，日本学術振興会特別研究員 PD）

匂い刺激は覚醒を引き起こさないが、睡眠中の脳で情報処理されるため、睡眠研究に適している。発表者らは、REM 睡眠中に匂い刺激を提示し、直後に覚醒させて夢にどのような効果が表れたかを検討し、これを匂い知覚の個人差と対応づけることで、「よく知った好きな匂いによって不快な夢がもたらされる」という不思議な現象を見出した。